

三橋規宏著「サステナビリティ経営」講談社 2006年11月28日刊を読む

「99対1の原則」で勇気を持って動き出そう

1. 21世紀の日本では、政府、地方自治体、企業、市民など、社会を構成するすべての主体が、環境保全や破壊された生態系の再生、省エネ・省資源に積極的に取り組み、持続可能な社会をめざさなければならない。
2. すでに、そのための多様な動きが始まっている。取り組むべき課題も分かっている。時代の追い風も吹いている。日本人は目標を持つと、非常に大きな力を発揮する国民である。使命感に燃えて走り出すと、元気も出てくる。あとは、自分のできることを身近なところから実行していく強い意志を持つことである。
3. 私はこの数年、新学期最初の授業で、学生に「99対1の原則」を説明している。

「99対1の原則」

時代を変えるためにはまず自分が率先して変わる

「99対1」の世界

- (1) 「98対2」の世界...状況はほとんど動かず
- (2) 「95対5」の世界...かすかな光が見える
- (3) 「90対10」の世界...時代は動き出す

いま 100 人の人間から成る世界があったとする。そして、この世界を変える必要が生じたとする。

4. そのためには、まず 100 人のうちの誰か一人が変わってみせることが必要だ。それは他人ではなく、自分でなくてはならない。まず自分が率先して変わる勇気を持たなければならない。これが「99対1の原則」である。
5. 最初は 1 人でも、時代の方向を正しく見据えることができれば、やがて仲間が少しずつ増えてくる。1 人の賛同者が加われば、「98対2の世界」ができる。やがて賛同者が 5 人に増えれば、「95対5の世界」に変わる。5 人が積極的に動き出すと、かすかに将来の展望が開けてくる。そして「90対10の世界」になると、確実に世の中を変えることができるようになる。

- 6 . 100 人が住む世界で、「100 人すべてが変わらなければ、世界を変えることはできない」と考えると、永遠に何も変わらない。
- 7 . 100 人のうち 10 人が変われば、時代を変えることができるのだ。その 10 人の最初の一人が他の誰かではなく自分であるというのは、確かにちょっと勇気がいる。しかし、自分一人からでも変わり始めれば、必ず世界も変わるのだ。
- 8 . いま、持続可能な社会をつくるための尖兵は企業である。企業は企業市民として、社会的責任を果たし、その上で十分な利益を上げる経営に挑まなければならない。それは大変だがやりがいのあることであり、経営者冥利に尽きるといえるだろう。100 人の世界の例で言えば、最初の一人になるわけだ。
- 9 . 乗り越えなければならないハードルは高いが、それを乗り越えれば、サステナブルなビジネスの地平が拓けてくる。「99 対 1 の原則」を実践する勇気を持った多くの企業家や経営者が立ち上がり、積極的に新時代の主役を担うとき、環境と経済が両立する持続可能な社会ははっきりその姿を現してくるだろう。

P284 ~ 286

[コメント]

なすべきことは山ほどある。問題はそれを誰がどのようにやるかである。三橋先生が示したサステナビリティ経営のための 99 対 1 の原則は大きな勇気、チャレンジする精神をわれわれに与えてくれる。

- 2011 年 4 月 23 日 林 明夫記 -